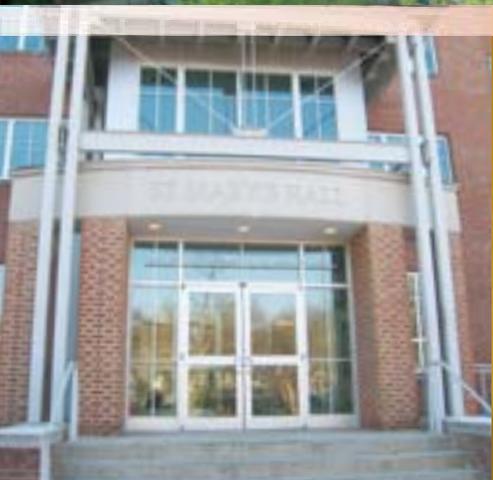


中国・イギリス・アメリカにおける 公開大学等の現状

—海外調査の報告2012-13—



中国・イギリス・アメリカにおける 公開大学等の現状

海外調査の報告 2012－13

放送大学

はじめに

学長 岡部 洋一

国際化が進み、国と国との境界線が薄くなりつつある今、放送大学は日本を代表する生涯学習機関として、国際的に評価される公開大学を目指している。

本学では、2009年から世界の公開大学の調査を開始し、2010年10月には「イギリス・アメリカ・韓国における公開大学の現状」、2012年5月には「タイ・マレーシア・香港における公開大学の現状」という海外調査報告書がまとめられた。海外調査はそれ以降も継続して行われ、本報告書はその第三弾である。

今年度の調査は、中国、英国、米国の3カ国で実施された。中国での調査は今回初であり、平成21年に国際交流協定を締結した国家開放大学一校だけではなく、雲南開放大学、上海開放大学も訪問し、広大な国の異なる地域の各大学の状況について、詳細な比較調査を実施することが出来た。英国オープン・ユニバーシティでの調査では、教育システムに基づいたチューター制度や学習評価、地域センターの役割、学生のスキルアップのためのサポート等、本学と異なる点から新しい仕組みに対する視野が得ることができ、実りのある調査となった。そして、米国での調査においては、公開大学であるメリーランド大学ユニバーシティ・カレッジだけではなく、通学制の大学2校（ジョージタウンユニバーシティおよびアメリカンにユニバーシティ）において訪問調査を行い、一般大学におけるオンライン教育実施等のノウハウについて非常に多くを学んだ。一般大学での調査は、本学で海外の大学調査を開始して以来、初めての試みである。

放送大学が、より国際的に開かれた大学となるために、今後も積極的に海外から学び、活かすことを継続していきたい。また、本報告書がその一助となることを願ってやまない。

目次

第1部 中国の「開放大学」に関する調査報告

調査の目的

1.	「開放大学」の概要	
1.1	広播電視大学から「開放大学」へ	2
1.2	理念	3
1.3	組織	3
2.	国家開放大学（北京）	
2.1	学科・専攻と教育内容	4
2.2	教育過程と技術	6
2.3	大学の広報活動	6
2.4	国際協力と交流	7
2.5	課題	7
3.	雲南開放大学	
3.1	規模と組織	8
3.2	理念と目標	9
3.3	教育プログラム	10
4.	上海開放大学	
4.1	規模と組織	11
4.2	教育手段	12
4.3	教育課程	12
4.4	国際交流	13
4.5	課題	14
5.	まとめ	
5.1	国家開放大学の現状と課題	14
5.2	放送大学との協力の可能性	15
	調査機関関係者リスト	16

第2部 イギリス公開大学調査報告

1.	Associate Lecturers(AL)	18
2.	OUの学生	20
3.	OUの授業形態と成績評価	21
4.	OUにおける地域センターの役割	23
5.	学生の学習スキルアップサポート	24
6.	OUにおける学習システム	25

第3部 米国大学調査報告

0.	背景	
0-1.	訪問先	28
0-2.	目的	28
1.	Georgetown University	
1-1.	ジョージタウン大学について	28
1-2.	ジョージタウン大学の基礎データ	29
1-3.	看護学研究科（修士課程）オンラインコースについての解説と実演	30
1-4.	まとめ	32
2.	American University	
2-1.	アメリカン大学について	33
2-2.	アメリカン大学の基礎データ	34
2-3.	アメリカン大学オンラインコースについての解説	34
2-4.	まとめ	37
3.	メリーランド大学ユニバーシティカレッジ・キャンパス (UMUC)	
3-1.	UMUC について	37
3-2.	UMUC の基礎データ	38
3-3.	UMUC オンラインコースについての解説	39
3-4.	Largo 地区施設概要	40
3-5.	UMUC の学習モデルとオンライン学習	41
3-6.	Media Lab 概要	43
3-7.	図書館	44
3-8.	まとめ	44
	資料：放送大学と各調査大学の一般事項比較表	45

第 1 部

中国の「開放大学」に関する調査報告

国家開放大学

雲南開放大学

上海開放大学

調査・報告：放送大学 情報コース 苑 復傑
人間と文化コース 宮本徹
総合戦略企画室国際連携係 西森 雅美

調査時期：2013 年 4 月 21 日～28 日

中国の「開放大学」についての調査報告

対 象 : 国家開放大学、雲南開放大学、上海開放大学
期 間 : 平成 25 年 4 月 21 日～28 日
訪問調査実施者 : 苑復傑、宮本徹、西森雅美

調査の目的

1979年に設立され、33年の歴史を辿ってきた中央広播電視大学は、2012年7月に「国家開放大学」に改組された。このような変化がなぜ、そしてどのように行なわれたか、その現状と問題点を探ることが本調査の目的である。そのため、北京にある「国家開放大学」、「雲南開放大学」及び「上海開放大学」の三校を訪問した。各大学での調査結果を以下にまとめる。

1 「開放大学」の概要

中国の放送大学として発展してきた「広播電視大学」は、2012年から「開放大学」に改組されつつある。そのため、現在は広播電視大学と開放大学が併存している。広播電視大学の設立以来の背景、理念、組織の概要は以下のとおりである。

1.1 広播電視大学から「開放大学」へ

中国は30年以上にわたる改革開放政策によって高度の経済成長を遂げ、総合国力が増強してきた。それを背景に高等教育も大衆化の段階に入り、2012年の高等教育の就学率は25%を超えている。さらに国民全体の知識技能水準を高めるために、「全民学習」、すなわち生涯（終身）学習を発展させて学習型社会を形成することが、政府の重要な政策目標となっている。

すでに中国では文化大革命の終結後、改革開放初期の1979年に北京の中央電大と、全国各地に置かれた地方電大からなる全国的なネットワークが形成されてきた。これによって、中国の高等教育はきわめて大規模な収容力を持つことが可能となった。

しかし中国社会はさらに大きく変化している。情報通信技術の急速な発展と社会での利用は、人々の生活スタイル、働き方、思考方式、とくに学習方法に革新的な変化をもたらしている。しかし、質の高い教育コンテンツの数は限られており、しかもそれは大都市の少数の大学に集中していて、全国的にみれば不均衡が生じている。情報通信技術を利用して、異なる地域、異なる年齢層、異なる職業をもつ人々に質の高い教育コンテンツやニーズベースの教育サービスを届けることが、教育機会の公平を実現するための重要課題とな

っている。

この中で、従来の広播電視大学の機能にはこうした課題に応えるうえでは不十分な点が多いことが明らかになっている。広播電視大学はもともとテレビ・ラジオを媒体とする大学として発足したが、その後インターネットなど多様な媒体を用いての教育に転換を試みてきた。しかしその歩みは必ずしも速いとは言えない。また広播電視大学は中国で膨大なシステムをもちながら、ICTを使って質の高いコンテンツを集約するプロセスを十分に構築できず、そのために地方の各電大で独自のシステムが次々に作られ、コンテンツの重複が生じ、質の確保をするうえでも問題があった。

このような背景から、国務院によって公布された「国家中長期教育改革と発展計画要綱 2010 年～2020 年」において、広播電視大学を「開放大学」として、広範な社会に教育機会を与える機関として再編する方針が明確化されることになった。

1.2 理念

このような背景から、開放大学は「開放、責任、良質、多様化、国際化」を理念として掲げている。すなわち、①社会経済の発展と人間の全面的発展の必要に応え、農村、国境地域、少数民族地域の教育需要に応じ、②社会的責任を背負い、教育の公平を促進する。③良質な教育資源と多様な教育機会とサービスを提供し、⑤国際的な視点をもつことをうたっている。このために、国家開放大学は中国高等教育システムの中の新しいタイプの大学として作り上げ、生涯学習の学習型社会を支える。

これらは既存の広播電視大学の理念と実質的には大きく異なるものではないが、新しい情報通信技術を用いるとともに、社会に「開放」された高等教育システムを形成することが、明確に目的として規定された点に相違がある。

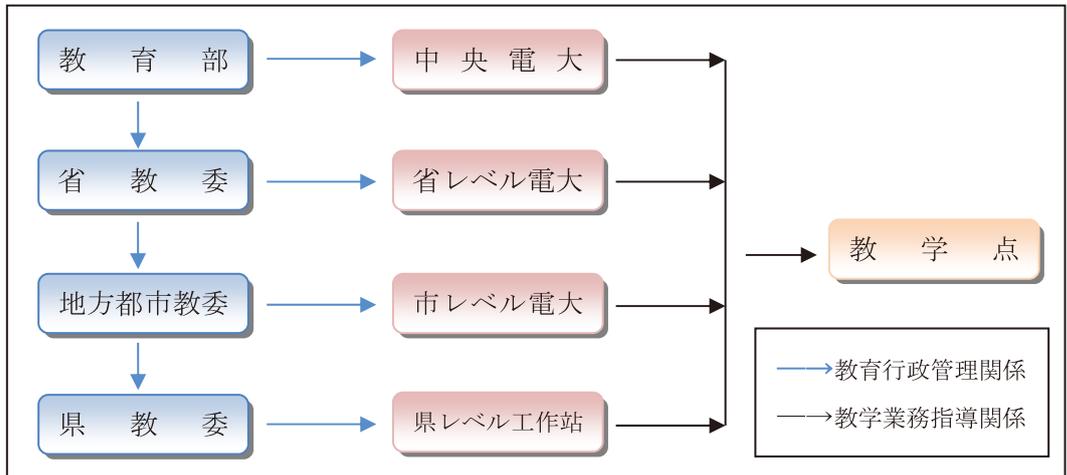
1.3 組織

現在の国家開放大学は、既存の中央広播電視大学システムと並行して運用されている。既存の広播電視大学は、北京にある中枢としての「中央電大」のほかに、省レベルで 44 校、市レベルで 929 校、県レベルの電大は 1,852 ヶ所がある。

教育組織として、文法学院、経済管理学院、工学院、教育学院、外国語学院、農林医薬学院及び直属学院(北京実験学院、海南実験学院、太原実験学院)、継続教育学院、八一学院(2001)、総参学院(2009)、空軍学院(2009)、チベット学院(2002)、障がい者学院(2004)、ネット孔子学院(2006)、中国テレビ師範学院、中国遼原広播電視学院、中国広播電視中等専門学校、コミュニティ教育実験センター(2008)などを設置している。32 年間 907 万人の学歴課程(学位を発行する)卒業生を送りだし、非学歴教育訓練(学位をとまない)を受けた者は 6,000 万人を数える。

電大の基礎の上に立つ国家開放大学は、本部(国家開放大学)、各地域(省)の分部、地方都市の学院と県の学習センターの 4 層構造からなる。

図表1 システムの4層構造



また国内外の著名な大学の連携による大学支持連盟、産業界との連携による産業支持連盟、企業との連携による企業支持連盟、中心都市との連携による地域支援連盟を形成する計画がある。開放教育のシステムとして、統一の戦略、共同のプラットフォーム、資源の共同利用、相対的独立に基づく運営を行なう。

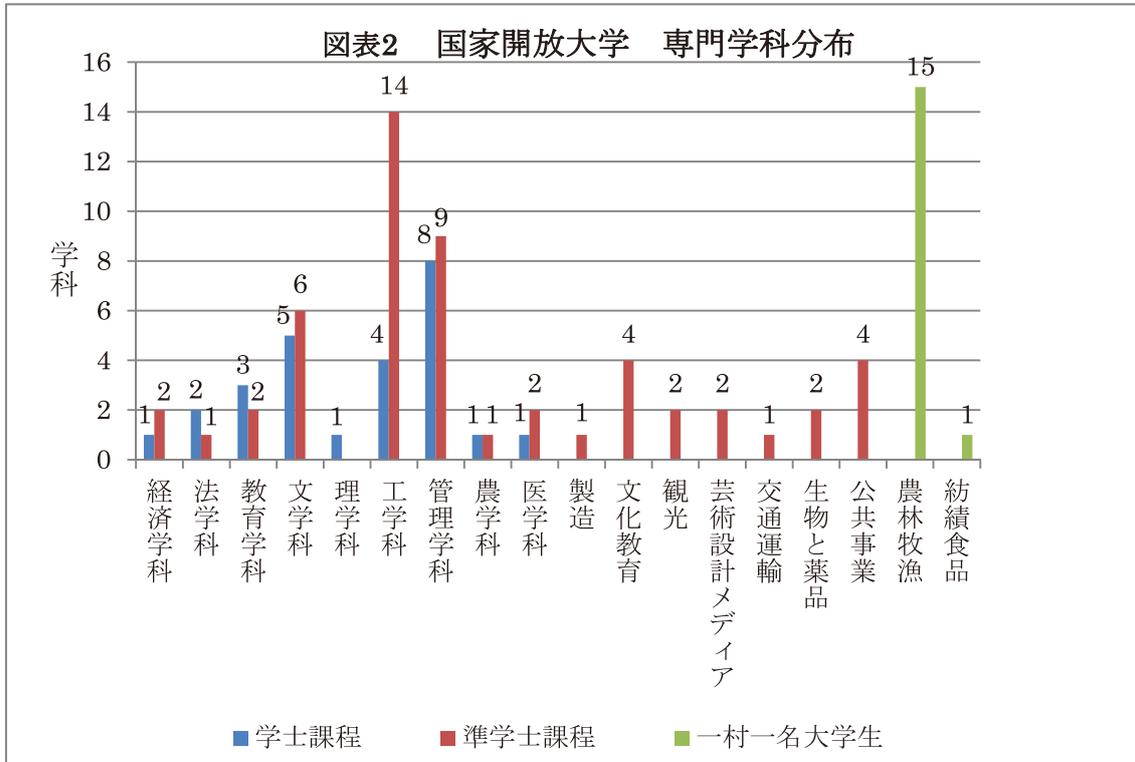
学歴教育と非学歴教育を含めた学生数は 2012 年時点では 359 万人に達しているという。その内、本科生（学部生）109 万人、専科生（高等専門学校生）250 万人、20 万人の農民学生、10 万人の軍人学生と 6 千人の障がい者学生がいる。国家開放大学には専任教員は 480 人と、国内の延べ 100 の大学から 1,300 名の客員教授を迎えて番組制作を行っている。

2 国家開放大学（北京）

北京に置かれている「国家開放大学」は、開放大学システム全体の中核組織として、6割の教材と番組の制作や単位認定試験の実施、学歴認定、学位の授与など、全国の開放大学に対する支援を行なうとともに、独自に教育活動を行っている。上記の直属学院などが、その教育実践の現場ともなる。

2.1 学科・専攻と教育内容

国家開放大学は 9 つの学科領域で、専門科目を開設している。図表 1 は学士学位課程、準学士学位課程、農民向けの一村一名（1 つの村に 1 名の大学生を養成する計画）の大学生専門課程の開設状況である。その分野は経済学、法学、教育学、文学、理学、管理学、農学、医学及び実用的な科目、例えば、製造、観光、文化教育、芸術アニメ、交通運輸、薬品と農林漁業、紡績食品などである。



教育内容については、内外の著名な教員を主任講師として迎え、質の高い教育内容、教育方法と教育支援を目指して、文字、図形、動画、音声などのメディア表現を用いて、印刷教材、テレビ・ラジオ教材やオンライン教材を作成している。2015年までに、60TBの容量のある600科目のオンライン教材、3万個の3～5分のビデオチップスを制作する計画を打ち出している。現在のところ、100のオンライン教材と3千の5分間ビデオチップスの制作に取り込んでいる。「国家開放大学 iTunes U」に現在無料で30科目の授業を公開している。その内容は社会学、教育学、文学、美術と建築、言語学である。これらのオンライン教材は対外中国語教育と中国語文化教育に関するコンテンツとして利用されている。

図表3は国家開放大学のトップページである。学習資源のタグから中国国内の重点大学で作成された国家級オープン・オンライン教材(518科目)、海外のトップ大学で作成されたオープン・オンライン教材(7,428科目)、普通大学のネット教育学院(67校)のオープン・オンライン教材にアクセスして、視聴できるようになっている。

図表 3. 国家開放大学ホームページ



データ出所：www.ouchn.edu.cn (2014年3月検索)

2.2 教育方法と技術

遠隔学習支援と面接授業を用いて、誰でも、どこでも、いつでも学習できる目標の実現のために、衛星、テレビ、インターネット、移動端末（携帯電話と iPad）を活用して、学歴教育と非学歴教育を行なう。2012年現在、学生募集、教育管理、試験、リモートアクセス、科学研究、デジタルサービスを含む国家開放大学の遠隔教育プラットフォームが出来ており、本部、分部、学院、学習センターと相互接続して、one stop 式で、公開かつ拡張できるシステムを目指している。またオンライン授業、学生オンライン空間、教員オンライン空間、オンライン支援サービス、オンライン試験評価、オンライン教育管理の 6 つのオンラインシステムの構築を進めている。

2.3 大学の広報活動

大学の広報活動としては、1998年からオンライン「広播電視大学時訊」、2013年から国家開放大学オンライン新聞が開設された。中国ネット（株）と連携し、国家開放オンラインチャンネルを通して、「ニュースセンター」、「学生募集」、「学習資源の展示」、「国家開放大学の今日」の四つの内容を配信している。さらに、新浪（株）ツイッターにおいても国家開放大学を立ち上げ、「Morning 国開!」、「Night 国開!」、「国開の声」、

「ニュースハイライト」、「毎週報道」といったコラムを設け、国家開放大学の最新動態及び遠隔教育関連のニュースの報道を行っている。

2.4 国際協力と交流

「中国・英国オンライン教育従事者訓練コース」は、イギリス公開大学から導入し中国語化したコースである。①オンライン授業の設計、②学生支援サービス、③オンライン学習指導の三つ内容によって構成される。授業は英語と中国語の二つの言語によって小人数クラスで行なわれる。

国家開放大学はアメリカのメリーランド大学、イギリス公開大学、カナダアサバスカ公開大学、フランス国家遠隔教育センター、日本放送大学、アメリカミシガン州立大学、韓国国立公開大学など 38 カ国の 128 校の教育機関と協力関係を結んでいる。

2009 年から開講した上述の三つの「中国・英国オンライン教育従事者訓練コース」のいずれも、イギリス公開大学からコンテンツを導入し中国語化したものである。この研修訓練コースは、英語と中国語の二つの言語で、プロジェクトベースの小人数教育を行っているが、オープンに行っているため、全国 7 割の省（直轄市、自治区）から 1,346 人の参加があった。学習者の所属は、中央電大、教育関係 IT 企業、雲南電大などの 55 の地方電大、北京大学ネット教育学院など 20 の大学と 10 の企業である。

図表 4 国際交流と協力



図表 5 中・英ネット教育訓練コース



データ出所：<http://www.ouchn.edu.cn/Portal/Category/gjhzxm.aspx>(2014 年 3 月検索)

2.5 課題

「大学の管理運営メカニズム」の課題として、内容的には多様化する学生の教育方略、多様化する学生に対応するコース設計、多様化する学生に対応する教育方法、単位バンク構想といった生存戦略と柔軟で弾力的な運営体制などであった。またより便利なサービス

を学生に提供し、図書館間の交流も行ないたいとの説明があった。

中央広播電視大学の基盤にたつ国家開放大学においては、300万人を超える学習者が学んでいる。この世界で最も規模の大きい公開大学は中国全土にネットワークを構築しており、中央から地方都市そして農村へ、分校や学習センターが連動的に機能している。1990年代以降の中国経済の急成長がもたらした高等教育への新しい需要が遠隔教育に大きな機会とチャレンジをもたらした。

中国の遠隔教育システムはグローバルな市場化、情報化、国際化の流れの中でその構造と機能がどのように変化していくか、また機構の管理運営、教育カリキュラムの編成、学生の募集、学生の学習支援体制、卒業生の社会貢献など、その実態と特質の詳細を明らかにすることは今後の課題である。このような多くの課題の中、今回はまず中国の広播電視大学の現状理解を促進することから訪問調査を実施した。今後の放送大学と国家開放大学（広播電視大学）との交流と協力を寄与すると同時に、教育市場の開拓の可能性を模索した。



国家開放大学の国際合作部のスタッフと放送大学からの訪問者（2013.4.22）

3 雲南開放大学

雲南開放大学は、全国開放大学システムの一部をなすが、特に地域的なニーズに対応しようとしている点に特色をもっている。

3.1 規模と組織

母体となる雲南広播電視大学は1979年に設立されて以来、33年の間に30万人の学士課程と準学士課程の卒業生を送りだし、約200万人の者に学歴に結びつかない非学歴教育訓練を行ってきた。全学には六つのキャンパスの65万平方メートルの敷地面積がある。教員数は全システムにおいては4,036人の専任教員、1,018人の兼任教員がいる。2013年の在学者は約8万人いる。

この8万人の学生の内訳は、学歴教育となる開放教育は5万人超、全日制の高等職業教育は約1万人、成人教育は約7,000人、中等職業教育は2,800人、オンライン教育は

6,000 人である。その他に、非学歴教育のオンライン学生は 14 万人がいる。中央と地方の関係にいろいろな改革課題に直面しているなか、この歴大なシステムは、経済発展における地方の教育ニーズに十分に対応できない現実がある。雲南広播電視大学は、「国家中長期教育改革と発展計画要綱 2010 年～2020 年」を受けて、雲南広播電視大学の基盤の上に、雲南開放大学を設立し、地方分権的、独立的な運営を試みている。



雲南開放大学・雲南広播電視大学前(2013.4.24)

雲南開放大学は、国家開放大学、上海開放大学、北京開放大学、広東開放大学、江蘇開放大学と同時に設立された最初の開放大学の 6 校の中の 1 校である。雲南開放大学は遠隔教育以外に、全日制の高等職業教育も行なっている。写真に雲南開放大学のプレートの横に、そのいくつかの看板がみられる。

雲南開放大学は地理的には南西部にあり、中国の西南地域、さらに南アジア、東南アジアを視野に教育展開を図ろうとしている。大学の組織機構としては、雲南省の省都昆明市に本部（1 校）、市や県に学院（36 校）、郷鎮に開放学習センター（128 所）を設けている。本部には、教員 491 人、職員は 203 人がいる。

3.2 理念と目標

雲南開放大学のミッションは、雲南省の地域住民全員に対して公共教育サービスと情報化プラットフォームを提供し、生涯教育システムを構築しつつ、生涯学習型社会の実現を

促進する。

いつでも、どこでも、誰でも、学習できる教育システムを作り、公平な教育機会を提供する。雲南公開大学は、雲南現代遠隔教育センター、雲南生涯教育サービスセンター、国家デジタル学習資源雲南センター、また認証された国家現代遠隔教育資源雲南バンクを構築すると同時に、雲南省の16の州と「地域支持連盟」、雲南省の25の大学と「大学支持連盟」、中国観光協会など14の産業と「産業支持連盟」、中国聯通などの19の企業と「企業支持連盟」を設立した。

こういった機構をもって雲南省全土に教育プログラムを設置するばかりではなく、オーストラリア、タイ、ベトナム、ラオス、香港など20の国と地域の公開大学と連携協力をしている。2008年にAAOU大会を開催し、AAOUとICDEの会員となり、400人の留学生を迎えている。調査団が高等職業学校を視察したところ、ラオスから来た2名の留学生に留学生生活について話を聞く機会に恵まれた。雲南省は少数民族の集中する地域であるため、少数民族地域に向けての教育配信も責務としている。



「雲南に開放大学が必要である」

「大学運営の国際化」

3.3 教育プログラム

教育プログラムの類型には、学歴課程と非学歴課程がある。開放教育、成人教育、高等職業教育、中等職業教育などは学歴に結びつく教育であり、幹部研修、企業の社員訓練、職業技能鑑定訓練などは学歴に結びつかない非学歴教育である。教育内容は、工学、理学、医学、管理学、経済学、法学、文学、教育学等の専門分野がある。学士課程プログラムは4つ、準学士課程プログラムは23、高等職業教育プログラムは34、成人教育学士課程プログラムは5、成人教育準学士課程プログラムは50、中等職業教育プログラムは34、全部合わせると、150の学歴プログラムがある。オンライン教育プログラムにおいては、オンライン幹部学院、オンライン工業社員プログラム、オンライン観光学院、オンライン教師学院がある。



高等職業教育プログラム 実習①

高等職業教育プログラム 実習②

雲南開放大学が中国で最初に設立した 6 校の開放大学の一つとなったのは、雲南省の地理的、民族的要因があると思われる。中国の 56 の民族の内 25 の民族が雲南省に居住しており、人口 4,596 万人中、38%は少数民族である。雲南省は高原地域に位置し、昆明の標高は 1,900 メートルである。また雲南省の国境線は 4,060 キロにのぼり、ビルマ、ラオス、ベトナムと隣接しており、昔から中国と東南アジアの陸上の交通路である。15 の民族が国境線を跨って、両側に居住している。

このように辺境の省の学習者にテレビ、ラジオ、インターネット及び印刷教材、DVD、CDなどの音響教材など多様なメディアを活用することによって、遠隔教育の潜在的な需要に応えるところにその特徴と可能性がある。またこうした活動を通じて、中国の東南アジアの国々との交流及び国際戦略の展開への役割も期待されている。

4 上海開放大学

上海においては、広播電視大学が長い歴史を持ち、その規模も大きい。一方で、開放大学は母体である上海広播電視大学との分離がまだ大きく進んでいない。したがって、以下では開放大学と広播電視大学とを並行して記述する。

4.1 規模と組織

上海開放大学の母体となる上海広播電視大学は、地方レベルの広播電視大学としては最も歴史も古く、規模も大きいものの一つである。



上海開放大学での訪問調査(2013.4.27) ① 上海開放大学での訪問調査(2013.4.27) ②

上海電視大学は 1960 年に成立。2012 年 7 月に現行名称に変更された。現在は上海遠程教育集団〔上海遠隔教育グループ〕の傘下であり、上海教育電視台〔上海教育テレビ〕、上海教育軟件發展公司〔上海教育ソフト開発〕等と企業体を構成する。6 系 1 部（ともに学部相当）及び 8 学院（比較的独立性の高い教育機構）からなる。専任教員は 1,480 名、兼任教員は 2,730 名である。学生数は「学歴教育」（単位付与）約 11 万人、「非学歴教育」（教養講座）のべ約 50 万人である。（2012 年現在）

日本の放送大学の学習センター・サテライトスペースに相当する「分校」「教学点」は、上海市全域に 41 箇所。所属学生数は 200 名から 9,000 名程度の規模。これらには教員も常駐し、最大のセンターで専任・兼任合わせて最大約 100 名が在籍する。学生募集は本部または各分校・教学点が行う。

4.2 教育手段

教育手段はテレビ放送からインターネットへの転換が 2001 年から始動し、現在インターネット、衛星、モバイル、デジタルテレビといったメディアを使っている。

開放大学が利用するのは教育部が管轄する中国教育電視台〔中国教育テレビ〕である。第 1 チャンネルと第 2 チャンネルは全国放送で、それぞれ総合教育番組及び国家開放大学の放送授業を放映する。第 3 チャンネルは各地方の教育テレビ局が使用し、上海では上海開放大学と同一グループの上海教育電視台が放送を受け持つ。

現在、第 3 チャンネルでは「非学歴教育」科目のみを放送し、老年教育学院を中心として編成している。

4.3 教育課程

カリキュラム：

- ・専科は 14 課程、本科は 19 課程を開設し、本科にのみ入学試験を課している。在学期間は最短 2 年半（5 学期）、最長 8 年。60%が所定の年限で卒業する。中退率

は 10%程度である。本科は上海開放大独自の学生の他に、国家開放大学（中央広播電視大学）の学生も受け入れている。

- ・ネット授業として 90~100 科目、スクーリング 200 科目余が提供されている。
- ・4 単位は 50 分×72 コマ（ネット授業 36 コマ+スクーリング 36 コマ）で構成されている。
- ・試験・評価は、学期内の定期考査で行なわれる。（“形成性考査”）+期末試験+平常点で評価されるが、比率は科目により異なる。期末試験時の持ち込み可の科目もある。本校と分校は共通問題。ネット上で試験を実施する科目は 10%以下である。

授業（番組）の制作：

- ・番組は中央広播電視大のものと自前のものと 2 種類がある。自主制作分は上海教育電視台に委託。
- ・専科の科目については専任教員が制作（約半数）。
- ・本科の科目は外部の客員教員を招聘している。

ネット教材：

- ・FLASH や動画を用いたもの(30~40%)、あるいは文字ベースの補習教材(約 50%)がある。前者については上海教育軟件發展公司や上海教育音像出版社に制作を委託している。

学習サポート（“助学”）

- ・学習者に対する個別の指導体制を整えている。これを「ネットサポートシステム」（“网络助学平台”）と呼んでいる。
- ・「ネット教室」（“网上课堂”）：教員が定期的にネット上で質問等に答える。メールアドレスも公表。
- ・「学習グループ」（“学习小组”）：1 グループ 6~12 名で構成される学生間の相互サポートシステム。これに SNS 等を利用している。

学習ガイダンス（“導学”）

- ・さらに学生に対する学習のガイダンスも行っている。このため、「教学キット」（“教学包”）、『教学指導書』、『開放教育指南』、「上海開放大学報」（隔週刊）を多媒体で配布している。

4.4 国際交流

上海開放大学の一つの大きな特徴は、国際的な交流に力を入れている点である。具体的には以下の点があげられる。

- ・国際交流学院の設置。外国人教育として語学、異文化間コミュニケーション、ビジネス会計、ビジネス法務等の科目を開設している。また英文教材をネット上で

公開（2014年完成）している。

- ・OU及び香港公開大学との交流。
- ・一部科目において、海外の大学と共同で講座を開設している。京都・精華大学との間でアニメーション関連の6講座（3週間の集中講義。2004年より）、オーストラリアのSouthern Cross Universityとの間でビジネス経営に関する24講座（英語教材）がある。

4.5 課題

現在、上海電大で特に力を入れているのは、a.資源庫（12tb）、b.学習プラットフォーム、c.支援システムの構築である。これによって100万人の学習者の利用に対応できる。

5 まとめ

5.1 国家開放大学の現状と課題

総じて、中国の開放大学については以下の点が注目される。

- ① 中国は広大な国土と膨大な人口に対応して、国家開放大学（広播電視大学）が設置され、すでに膨大な学生を抱える巨大な教育システムが構築されている。現在、経済社会の発展に応じて、それを全国民に開かれた「開放大学」システムへと転換する方向での改革が始まっている。そこでは学位を提供する課程のみならず、多様な成人教育課程を抱擁することが構想されている。
- ② ただし現在のところ、開放大学への移行はまだ道半ばであり、従来の広播電視大学と開放大学が併存している状況である。また長期的に、開放大学に全面的に移行するのか、それとも両者が併存した状態を続けるのかについても、必ずしも明確ではない。これについては、教育部（日本の文科省に相当）は専門家チームを作って、海外の実践モデルを模索しているところである。
- ③ 開放大学は社会全成員に向けて、生涯学習の学習型社会の構築、多様化、かつ個性化に対応する質の高い教育を目指すところにあるが、効率的な大学運営の追求と矛盾している面もあるように思われる。なお、国家開放大学の予算に占める政府拠出分は5%に過ぎず、あとは自己運営による収入である。
- ④ 開放大学の今後の具体的な課題としては様々な問題が指摘されている。特に多様な学生が入学することが予想されることから、学習内容、学習時間、教育方法、試験方法などについて、どのように個別の期待に応えるかが問題である。これまでの広播電視大学では、中央統制によって教育プログラムが画一化されていたこと（「五つの画一」教育計画の画一、教材の画一、単位の画一、試験の画一、評価の画一）が批判されてきた。これをどう克服するかが課題となる。またクラウドなどの新しい情報通信技術（ICT）の活用も課題となっている。

5.2 放送大学との協力の可能性

国家開放大学としては、以下の点で、日本の放送大学との協力が望ましいとしている。

① 教材の共同制作

特に以下の点での教材の共同制作が有用。a.ビジネス日本語または中国語教育プログラムの共同制作、またはその改編、翻訳による共同利用、b.防災教育プログラムの共同制作、たとえば四川大地震と東北大震災を内容とするコンテンツの制作、c.ビジネス文化の日中比較 d.オンライン授業の設計、オンライン教育評価、オンライン学習ツールなどの教材の共同制作。

② 教材の互換

放送大学で不要になった教材を受領したい。また、日本語の教材を置くコーナーを上海開放大学の建物内に設置できるとの申し出があった。

③ 教職員・専門家の交流

国家開放大学では、日本語教育プログラムの新規起動、孔子学院の設置による中国語教育の海外への普及を急務としている。まず協力連携可能な領域で、人的交流を通じて始めたいという。

中国OU調査 関係者リスト

No.	所属機関名	氏名	職名	氏名 (英語表記)	職名 (英語表記)
1	国家開放大学	楊永博	副教授 对外合作与交流处 处长 (部長)	Yang Yongbo	EDD. Associate Professor Director, international Cooperation & Exchange Department
2	国家開放大学	陳海山	对外合作与交流处 副 处长 (副部长)	Chen Haishan	Deputy Director International Zcooperation & Exchange Department
3	雲南廣播電視大学	張平	副校長 (副学長)	Zhang Ping	Vice President
4	雲南廣播電視大学	丁燦生	人事处处长 (人事部部长)	Ding Cansheng	
5	雲南廣播電視大学	高振寰	資源建設事務室長	Gao Zhenhuan	
6	雲南廣播電視大学	林瑛	科技处处长 (科学技術 部部长)	Lin Ying	
7	雲南廣播電視大学	何海雲	国際交流学院副院长	He Haiyun	
8	雲南廣播電視大学	徐弘	事務	Xu Hong	
9	雲南廣播電視大学	段瑩雅	事務	Duan Yingya	
10	雲南大学	張磊	博士 高等教育研究院 副院长 教授	Zhang Lei	
11	上海開放大学	魏奇	国際交流主管	Wei Qi	International Exchange Chief Foreign Affairs Office
12	上海開放大学	韓根生	事務局長	Han Gensheng	
13	上海開放大学	劉文富	博士 国際交流学院 教授	Liu Wenfu	Dr. International Exchange Institute Dean and Professor
14	上海開放大学	伊曉婷	直属開放教育学院 副 院長	Yi Xiaoting	

第 2 部

イギリス公開大学調査報告

調査・報告：放送大学 学長 岡部 洋一
副学長 小寺山 亘
情報コース 青木 久美子

調査時期：2013 年 7 月 14 日～16 日

英国オープン大学調査報告書

調査日時：2013年7月16日(木)

調査人員：岡部学長、小寺山副学長、青木

報告書作成：青木

OU側聞き取り調査協力者：

Christina Lloyd, Director, Student

Toby Scott-Hughes & Tamsin Lister, Senior Managers, AL
Support and Professional Development

Denise Bates, Acting Director, Student Support Services

Amanda King, Senior Manager, Assessment Handling

Rissa DelaPaz, Study Skills Development

Paul Beeby, Learning Technology Services



岡部学長と小寺山副学長
(OU 東キャンパスにて)



Paul Beeby 氏と岡部学長・青木
(OU 本部にて)

1. Associate Lecturers (AL)

英国オープン大学 (OU) の教育モデルの特徴として、6000 人あまりに及ぶ Associate Lecturers (AL) と呼ばれる非常勤のチューターがある。日本でチューターと言うと、教員の下で働くアシスタント的な立場の人を想定する人が多いと思うが、OU の場合はこの AL が教育において大変重要な役割を果たす。AL は、他の大学で教鞭をとっている人であったり、プロフェッショナルな分野で活躍している専門家であったり、数としては多くないが OU の大学院を卒業した後 AL として勤務している人であ

ったり、とその背景は様々である。最近ではいわゆる「ポートフォリオ・キャリア¹」を持つ人が増えており、こういう人たちにとって OU における AL の仕事は魅力的であると考えられているという。AL の新規募集は、通常、www.jobs.ic.uk 等の英国全土を網羅する就職サイトでの 3 週間のリスティングから始まり、その後、それぞれの地域センターにおいて対面で面接が行われるか、電話やネット上でインタビューが行われる。コースに登録した学生 20 名に対して AL を一人つけるようにしているため、登録者数が予想より多いコースでは、急遽 AL を雇用することになることもあるという。

前述したように AL は多岐な背景を持つため、AL に対する研修にも多大な尽力を注いでおり、その研修システムと質保証のシステムはサイエンスであると言えるほど徹底している。特に、OU では、学生の作文力の養成や文書を作成する事で理解を深めることに力を入れており、そのために AL は学生が提出するレポートに対して、きめ細やかなフィードバックを与えるよう指導されている。AL の研修は学生部(Students)の仕事であり、AL の研修体制は万全に整えられている。学生部は、システムの使い方等の AL の一般的な研修を行うが、科目内容に関しては、それぞれの学部のラインマネージャーと呼ばれる地域専任教員が研修を行うことになっている。AL の一般的な研修に関しては、Tutor Home というポータルサイトが用意されており、そのサイトには、雇用条件等を含む AL が知らなければならない全ての情報が載せられており、また、AL 同士で話し合いができるようなチャットとフォーラムも設けられている。このように新任の AL の研修はオンラインで行われ、研修に費やす時間に関しても対価が AL に支払われるようになってきている。対面で行う研修では、講師の費用、受講者の交通費、昼食代等が必要になってくるわけで、それを考えるとオンラインでの研修は費用対効果が高いと考えられている。しかしながら、対面で AL 同士が集まって情報交換を行う場も重視しており、年に一回はそういった対面の情報交換会を各地域センターで開催するようにしている。

1～2年ほど前までは、AL の数は 8,000 人を超えていたが、昨年的大幅な財政改革により、現在では 6,000 人ほどに減っている。これは意図的な削減であり、新しいテクノロジーの導入により多様な研修の必然性が高まる中での費用削減措置でもある。実際に、OU が AL を解雇した訳ではないが、全ての AL が任期付の契約（通常契約期間はコースの存続期間）であるため、契約を更新しないことによる人員削減を行ったという。30 単位を教える AL を一人雇うのも、120 単位を教える AL を一人雇うのも、研修にかかる費用の面ではあまり違いがないので、それだったら、AL の数を減らす一方 AL

¹ 多種の仕事をパートタイムで、掛け持ちで行うことを指す。

一人当たり多くの単位数を担当してもらった方が効率がよい、という経営側の考えからであるという。

従来、このALは全て非常勤というパートタイムの雇用形態で雇用していたが、それをフルタイムの専任にしようとする動きがある。しかしながら、経営側は既に5,000名もの専任スタッフを抱えており、これ以上専任スタッフの数を増やすことは経営的に得策ではないと考えている。OUはALの雇用関連に年間大学総支出の約一割である5,700万ポンド（約95億円）を費やしている。この額は、ALの給与のみならず、研修費用等も含む。ALの給与は担当する学生数と毎週の勤務時間によって決定される仕組みになっており、勤務年数によって昇給する。また、新しいシステムや技術が導入されたときは、それを積極的に活用したALに若干の報酬が付与されることもある。

前述したように、通常16~20名の学生のグループをAL1名が担当し、学生とのインタラクションを行う。学生がALに何を期待すべきなのか、ALが学生に何を期待すべきなのか、等が明文化されたものがあり、ALと学生に学期初めに周知されるようになっている。また、毎学期末、学生にALの評価を行ってもらうアンケートを実施している。各ALをモニターと呼ばれる人が監督しており、このモニターは数人のALのオンライン上の活動を監視している。何か問題が発覚したときは、このモニターは地域専任教員に連絡をとり、最終的には地域専任教員が対処する仕組みとなっている。この他にも、ALが業務を行って21日以上システムにアクセスしていない場合などは、システムが自動的にALのメールアドレスにリマインダーを送る仕組みなどもある。各ALの平均回答時間や成績分布等がデータとして可視化されるシステムもあり、毎学期このデータを地域教員等がみて、ALのパフォーマンスを評価できるようになっている。

2. OUの学生

OUの学費は年間学生一人あたり約5,000ポンド（約850,000円）である。OUの現在の学生数は約21万人で、その4分の3は有職者である。そういった人たちがOUで学ぶ理由のほとんどが、昇進のためであったり、よりよい転職のためであったりといった実践的な理由からである。しかしながら、OUでは就職サービスにも力を入れており、いわゆる「雇用力（employability skills）」というものの育成を重視して、学生がより優れたスキルを身につけること、及び、身につけたスキルを可視化する手助けをしている。

10年ほど前までは、OUにおいても学生の平均年齢は高く（40代）、高校卒業後長年働いた人が入学してくる場合が多かったが、近年になってOUの学生の平均年齢は下がってきており、現在では平均年齢は30代前半となっている。また、OUも放送大学

同様入学選抜を課していないため、だれでも入学する事が可能であり、そのため、多種多様な学生がいる。中には、身体的、または、精神的障害を抱える学生もおり、そういった学生に対するサービスにも力を入れている。障害者支援の部署もあるし、また精神障害や学習障害を専門とした職員もおり、AL に対して特別研修やアドバイジングを行っている。現在 21 万人ほどの学生のうち約 19,000 人の学生が何らかの障害を抱えており、その数は近年急激に増えているという。英国では昨年度から高等教育の財政改革で、全国の大学で学費が高騰しており、通学制の大学に高い学費を払って通うよりも、自宅で学ぶことができる OU を選択する学生が増えてきていることに依ると考えられている。また、障害者の中でも、精神障害や学習障害を持つ障害者の数が急増しており、これは、以前は精神障害や学習障害を公にすることへの躊躇いがあった人々が、自ら障害を認めて入学する傾向が増してきたためと思われる。

OU では、国からの補助を受けて、刑務所の受刑者（現在約 1,500 名）にも教育サービスを提供している。この受刑者への教育サービスとは、障害者へのサービスとは全く逆の問題を抱えている。すなわち、障害者へのサービスは主にテクノロジーを活用して解決できるものが多いが、刑務所ではインターネットへのアクセスが禁じられているため、オンラインの教材も印刷媒体で提供しなければならないところが課題となっている。AL が直接刑務所にいって対面でチュートリアルを行う場合が多いのだが、これがオンラインでできれば大変効率的であり、カリキュラムの内容もさらに豊富にすることが可能になる。特に、心理学と法学が受刑者の間では人気の科目であるという。

3. OU の授業形態と成績評価

25 年程前は、夜間や週末そして夏季集中といった時期に対面授業が行われていた。しかしながら、現在では、対面授業はほとんどなくなり、対面の夏季集中講座が数えるほど残っているだけである。例えば、遠隔ではできない科学実験などは他大学の教室を借りて行っており、最盛期には 30 もの他大学の教室を借りて対面授業を行っていたが、現在では 5 大学のみとなっている。OU では対面授業の受講は最初から卒業要件には入っておらず、対面授業を必須とする科目については、経済的・時間的制約から受講者数が常に少ない傾向にあり、その結果、対面授業の数を減らしていかざるをえなかったという。

学部科目の成績評価は、AL による形成的評価（OU では TMA, tutor-marked assignments と呼んでいる）と、対面による期末試験、又は、課題のオンライン提出（OU では EMAs, end of module assessment と呼んでいる）で行われる。TMA と EMA の成績に影響する割合は 50・50 である。通常一学期に 3~6 回の TMA があり、この課題

の採点やフィードバックを行うのが AL の重要な役目であり、オンライン上の TMA 提出には AL は 10 日以内にフィードバックを返さなければいけない、と規定されている。2012 年の 1 年間で 84 万件の TMA が学生により提出され、そのうちの 87% がオンラインでの提出であったという。

ほとんどの TMA がオンライン上で行われるが、数学などオンライン上での提出やフィードバックが難しいものは郵送による提出や返却を行っている。学生は AL の TMA 評価点に対して 28 日以内であれば Student Casework Office に異議を申し立てることができる。期末評価課題や試験は、事前に外部監査員が目を通していると同時に、学生が実際に提出したものや、それに対する評価もみることができる仕組みとなっている。TMA の他にも少数ではあるが、コンピュータが自動的に採点をする CMA (computer-marked assignments) もある。2012 年度の 1 年間で 173,000 の CMA が提出された。

学生のレポート課題における剽窃問題などの対策としては、CopyCatch と Turnitin のサービスを契約しており、疑わしいケースが発生した場合にはアカデミック行為サービス (Academic Conduct Services) という専門部署がハンドルしている。

最近では、EMA においても、できるだけオンラインの課題提出が推奨されているが、まだ対面で試験を行うモジュールが大半を占めている。EMA のオンライン上の課題の採点は、通常複数人によってなされる。採点者は、コースを開発した専任教員であったり、又はそのコースの AL であったりする。しかしながら、AL の通常契約には EMA の採点は職務内容には入っておらず、AL が EMA の採点を行う場合は別契約となる。また、客観性を保つため、EMA を採点する AL は、TMA を行った AL ではないことを条件としている。この EMA の採点に関しては、モジュール登録学生数が多い場合は複数の採点者が分担して行うことになるが、最終的には成績評価委員会 (EMB, Examination and Assessment Board) が、全ての採点が一定基準で行われているかどうかの最終評価を行う。

対面の期末試験は通常 1 モジュール 3 時間で行われ、試験のための会場は、OU が契約している幾つかの施設で行われる。試験形式も択一式の問題は大変少なく、ほとんどが小論文方式の試験である。2012 年度 1 年間で 91,000 の対面試験が実施され、そのうち 13,000 は海外で行われたものであった。最近では、試験においても筆記ではなくコンピュータの使用を希望する学生が増えており、コンピュータで実施する試験も試案中ではあるが、原則として会場にコンピュータを持参して行う試験であり、その場合、会場に十分な電気コンセントがないことが懸案事項となっているという。また、ウェブカメラを使った認証で自宅におけるオンライン試験も考えているところである。筆記の試

験回答が読めない場合は、コピーをして受験者に送りタイプしてもらうこともある。その場合、元回答にない修正や加筆かないかどうか厳密にチェックしている。また、全ての試験結果は3名のチームが入力している。学生は設問ごとの評点ではなく、全体の評点のみが知らされるようになっている。

OUは地域センターの他にも幾つかの施設と契約しており、そこで対面のチュートリアルや対面試験が行えるようになっている。そういった施設の賃貸料金は通常2時間40ポンド（約7,000円）ほどで、地元の大学や学校・図書館といった施設が利用される。OUでは年間50,000程のこのような2時間の対面チュートリアルセッションが開催されている。最近では、大学が競争意識を持ち始め、OUに施設を貸すことを断る大学も増えてきているという。

試験や課題の採点にあたっては、まず、コース開発チームが準備した採点基準に則って通常複数の採点担当者が採点にあたるが、実際に採点を実施される前に、試行期間としてダミーの課題が6件それぞれの採点担当者にあらかじめ送られ、採点担当者はそれを採点して採点者顔合わせに出席する。ここで、各採点者の採点が一貫性があるかどうか評価され、より詳細な採点基準が必要となった場合、実際の期末試験実施前に準備される。

試験が終了し、採点者が全ての採点を終えた段階で最終評価会が設けられ、そこにおいて最終的な成績評価が決定される。

4. OUにおける地域センターの役割

OUには本学の学習センターに相当する13の地域センターがある。この地域センターには、専任教員である地域教員（regional academics）が学部每一名配置され、ALの雇用関係のサポートや訓練が行われている。この地域教員はALの募集・採用に携わるのみならず、ALの評価や管理も行っている。学生サポートサービスも各地域センターにあり、4~8名の教育アドバイザーと呼ばれるスタッフが学生へのチュートリアルや個別相談を担当している。学生サポートサービスの本部はロンドンにあり、OU全体では200名以上ものスタッフがこの学生サポートサービスに属する。2014年からはこの学生サポートサービスは地域センターに属するのではなく、カリキュラムに密着した形で学部所属するようになる。ミルトン・キーンズ本部にいる専任教員は、もっぱらコース設計・開発に携わり、通常ALに直接関与することはない。

この学生サポートサービスの役割としては、障がい者のための試験会場をアレンジしたり、アドバイスをしたり、また、ALに直接相談できないような内容に関するアドバイスを行ったりしている。ALからの相談も受けることもあり、学生とALが直接コ

コミュニケーションを図れないトラブル等の仲介も行っている。この13の地域センター全体の様子が分かるシステムが整備されており、ある地域センターに人手が必要となったときは人手が余っているセンターから人員を派遣できる仕組みもある。

以前は海外に在住する学生をサポートするために国外にもサポートサービスセンターを置いていたが、コストがかさむため、現在はそれを行っていない。しかしながら、海外在住の学生の試験には、学生がアクセスしやすい場所で試験監督を行うようアレンジするようにしている。

5. 学生の学習スキルアップサポート

OUには遠隔で学ぶ学生のために様々なサポートサービスが **Student Home** というポータル上に用意されている。その一つに、**Skills for OU study** というサイトがあり、学生が自分の学習スキルを自己診断して、診断結果に応じて様々な学習ができるように設計してある

一般に公開されている部分は文字情報のみであるが、学生がログインしてこのサイトを見ると、文字情報の他にビデオを視聴できたり、ポッドキャストを聞いたり、課題の提出ができるようになっている。

We use cookies to make sure our websites work effectively and to improve your user experience. If you continue to use this site we will assume that you are happy with this. However, you can change your cookie settings at any time. [More Info/Change Settings](#)

[Continue](#)

 [Accessibility](#) [Sign in](#) [Contact](#) [Search the OU](#)

[The Open University](#) [Study at the OU](#) [Research at the OU](#) [OUCommunity](#) [About the OU](#)

Skills for OU Study

Tips and guidance on effective study - simply choose the links that interest you

[Home](#) [Assignments](#) [Revising and examinations](#) [Core skills](#) [Computing skills](#) [Ongoing skills](#)

 Skills Check 

Assignments

- Preparing assignments
- Types of assignment
- Writing in your own words
- Writing for University



Revising and examinations

- Revision
- Revision techniques
- Examinations
- Managing stress



Core skills

- Time management skills
- Reading and writing maths
- Giving presentations
- Critical reading techniques
- Developing academic English
- Forums



Computing skills

- Web browser basics
- Computer security
- Computing online
- Making audio recordings
- Using your computer
- Acquiring a computer for study



Ongoing skills

- Notetaking techniques





Reading and Taking Notes

6. OU における学習システム

OU の教材は全て LTS (Learning and Teaching Solutions) という部署で制作される。この部署には 250~300 名のスタッフが勤務しており、教材制作にあたっては、学部の教員とコースチームを構成して取り掛かる。OU の主たる学習管理システム(LMS)は Moodle である。2005 年に、これまでのバラバラのシス

テムではなく統一した LMS を採択しようとチームで様々なシステムをベンチマーキングし、Moodle を採択した。理由としては、Moodle が最も柔軟性があることと、商業システムに頼るよりも、自ら先駆者となって開拓していった方がよいと戦略的に考えたからである。OU が Moodle を採択してからは、他の大学もそれに従うようになり、Moodle の市場シェアが一気に伸びた。Moodle はオープンソースであるので、OU で開発した Moodle の小テストモジュール等も、オープンソースとして Moodle のコミュニティに貢献している。メインのシステムは Moodle であるが、その他に Google Apps も活用して、学生のノート取りシステム、OU Annotate、を開発したりしている。

Moodle ベースの学習システムは、モジュールが違っても一貫したインターフェースでデザインされており、また、OU では、教材を呈示する以上に学生に学習活動をさせることを重視しているため、学生の学習活動をサポートする様々なツールやシステムが開発されている。モジュール制作にあたっては、OU Schemer というテンプレートが用意されており、モジュールコンテンツは、ウェブブラウザ、電子書籍、タブレット等、様々なデバイスに対応できるようになっている。現在、OU Anywhere というプロジェクトで、スマホ等のデバイスにアプリをインストールすることによって、OU のコースコンテンツがいつでもアクセスできるようになっている。モジュールコンテンツの制作にあたっては、提案から 2~3 年が制作に費やされる。現在、この制作期間を短縮しようという計画である。

第3部

米国大学調査報告

ジョージタウン大学

アメリカン大学

メリーランド大学 ユニバーシティ・カレッジ

調査・報告：放送大学 学長 岡部洋一
心理と教育コース 岩永 雅也
情報コース 浅井 紀久夫

調査期間：2014年2月26日～28日

アメリカ三大学訪問調査報告書

0. 背景

0-1 訪問先

- ・ Georgetown University, St. Mary's Hall (Medical Center, Washington D.C.)
- ・ American University, Leonard Hall (Main Campus, Washington D.C.)
- ・ University of Maryland University College, Headquarter (Adelphi, Maryland)及び Academic Center (Largo, Maryland)

0-2 目的

放送大学でオンライン授業を進めるにあたり、先行して実践しているアメリカ合衆国の高等教育機関を訪問し、教材やその作成、双方向性の確保、試験の実施方法などについて調査する。

1 Georgetown University

1-1 ジョージタウン大学について

ジョージタウン大学 (Georgetown University) は「首都三大学」の一角をなす名門校であり、1789年、ジョージ・ワシントンが初代大統領に就任した年に創設された。イエズス会によって創設され、カトリック教会が作った大学としてアメリカ最古の歴史を持つ。首都ワシントン D.C.の西部、ジョージタウンのポトマック河畔にメインキャンパスがあるため、立地的に政治学や国際関係学、言語学など社会科学系の学問分野に強い。国際性も豊かで、学生層は多岐にわたり、海外での学習機会も豊富に提供されている。伝統的に看護学も国際的な評価が高い。ジョージタウン大学からは200年以上にわたって数多くの政治家や外交官が輩出している。ノーベル賞受賞者もここから5名輩出している。

School of Nursing and Health Studies は、1903年、大学病院の訓練プログラムとして設立された。看護プログラムは、初学者及び先進実践看護の両方を教育する。この学部は、ますます複雑化する医療の供給に色々なレベルで対応できる未来のリーダーを育てることを目的としている。School of Nursing and Health Studies は、メインキャンパスの隣に位置する Medical Center 内 St. Mary's Hall にある。

また、ジョージタウンという伝統的な街の人々に開かれた大学で、きわめて質の高いカフェテリアにはバーや寿司バーなども併設され、昼食時には地域の市民（主に高齢者）からも大勢利用しに来ていたのが印象的であった。



St. Mary's Hall



School of nursing & Health Studies

1-2 ジョージタウン大学の基礎データ

以下の College と School を持ち、広い領域のプログラムを備える。

- Georgetown College
- McDonough School of Business
- Walsh School of Foreign Service
- Graduate School of Arts and Sciences
- Law Center
- School of Medicine
- School of Continuing Studies
- School of Nursing & Health Studies
- McCourt School of Public Policy

2012 年秋時点で、Full-time と Part-time を合わせた Faculty の人数は、2,234 人である。

	Full-time	Part-time
Main Campus	822	533
Law Center	130	196
Medical Center	395	151
University Services	7	

2011 年～2012 年の学位授与は以下のようになっている。

	授与の数
Baccalaureate	1,817
Masters	2,726
Doctoral - Research/Scholarship	102
Doctoral - Professional Practice	834

ジョージタウン大学には附属図書館があり、3,500万冊の蔵書と1,250万のe-bookを所蔵する。2013年度には、21,495件のレファレンスサービスの問い合わせがあり、回答された。また、2013年度には、979,112人の来訪者があった。

1-3 看護学研究科（修士課程）オンラインコースについての解説と実演

参加者

Georgetown 側：Jeanne A. Matthews (Chair, Department of Nursing)、Martin Y. Iguchi (Dean, School of Nursing and Health studies)、Program Directors 数人（オンサイト及びリモートサイト）、技術支援要員1人（Chuck氏）



左から、岡部、岩永、プログラムディレクタ2人、Jeanne A. Matthews 学科長、プログラムディレクタ1人

Department of Nursing で提供されるオンラインプログラムは、完全オンラインではなく、対面学習との組み合わせを採用している。それぞれのプログラムには、TV会議システムを使ったLiveオンラインセッションが提供され、対面と同じような環境を構築している。

ジョージタウン以外に、テキサス、デラウェア、ミネソタ、ペンシルベニアなどの拠点を接続し、オンライン授業のデモを体験した。Web会議ソフトウェアとして、Adobe Connectを使っている。

オンライン授業は、2011年3月に開始された。遠隔教育セクションの学生は、オンラインコースの受講だけでも修了できるように設計されている。オンライン授業を受ける学生は年々増え、最近では半分近くの学生がオンライン授業をとっている。

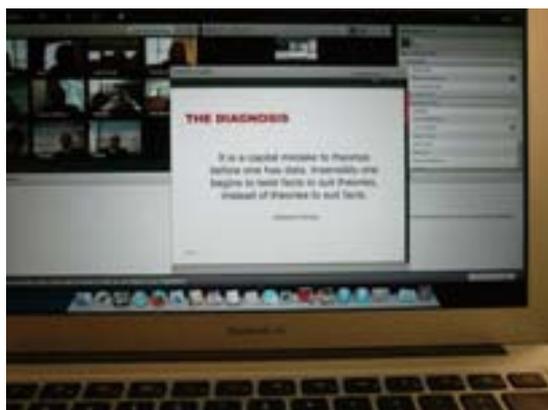
オンライン授業は、同期型と非同期型の両方で行われる。同期型では、Adobe ConnectというWeb会議ソフトウェアが使われ、十数人が同時に接続可能である。参加者全員が、

同一の分割画面の中に常時モニターされて、参加していることが全員にわかるようになっている。

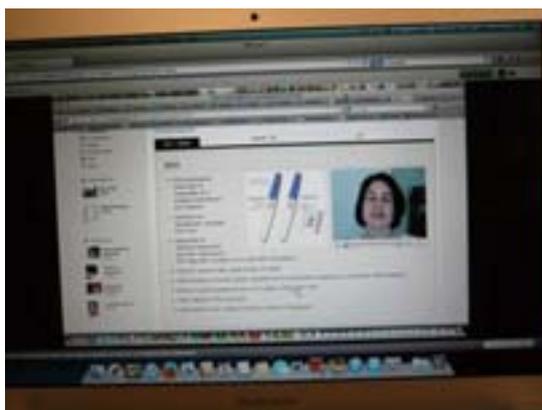
インターネット回線は時に不安定になることがあるため、音声の交換には電話を利用することも多い。実際にミネソタからの参加者（Tiffanie 氏）は音声に関しては終始電話回線を利用していた。また、チャット機能を使って、リアルタイムに学生からの質問や意見を受けられるようになっている。オンライン授業は記録され、欠席者や復習のために自由に利用される。非同期型では、LMS を使う。非同期では、学生が時間に縛られないので、学生の利便性はよい。非同期型の教材は、講師の顔のビデオとパワーポイントの提示資料、もしくは実践をデモするビデオなどから構成される。

読むべき資料や書籍は、同期型授業の中で示されることが多い。学生は週毎にアサインメントのスケジュールを持ち、その週にスケジュールされた内容を次の週までに完了しないといけない。その内容は、その週に行うのが最善と考えられたものとなっている。

同期型オンライン授業の参加人数は最大 14 人という少数で、講師と学生の、あるいは学生同士の個々のコミュニケーションを重視している。今回のデモンストレーションでは、 $4 \times 3 = 12$ の画面分割が用いられ、我々も含めて 12 名でのセッションとなった。授業では、週毎に 2～3 時間の議論を行う。講師はケーススタディや、非同期型教材で学んだことを応用したアプローチを使って、同期型オンライン授業を行う。このやり方は特に臨床コースで顕著であり、学生の臨床体験が活かされる。多くの学生は、看護を必要とする人にそれを提供する医療組織で働いており、病院での看護等を行っている。clinical faculty advisor と呼ばれる教授指導者が、学生の臨床体験を監督する。ケーススタディには、学生が実際に経験しているケースが用いられることも多い。



端末で資料が提示された様子



ビデオ+説明資料の教材

学生は、数名からなる学習グループを形成する場合が多い。そのグループでは、一緒に教材を学習したり、試験のための勉強をしたりする。講師によって、TA による学習支援を用いることがあるが、少人数クラスなので、担当教員が十分に教育的対応をすることも可

能で、TAの支援を必要としないことも多い。また、専属の技術支援員を1人（Chuck氏）オンライン授業のために雇用しており、オンライン授業の技術的な側面を支援している。TV会議ソフトウェアに関する支援は、全て彼の雇用契約に含まれている。

非同期型の教材を作る際、ビデオ等に関しては講師自身で用意する場合もある。特に、オンライン授業をはじめて実施する教員やオンライン授業に不慣れな教員には、支援が必要である。

評価は、色々な方法で行っている。プログラムの性格上、筆記試験だけの評価は適切ではない。評価を左右する試験（試験監督官付）、クイズ（小テスト）、直接観察、実技のビデオ、症例分析、クラスセッションへの積極参加、レポート作成、臨床機関での実習等が、学生評価に使われる。試験とクイズは、混合プラットフォームで提供される。大学は、試験を管理するシステムとしてBlackboardを使っている。オンライン上での試験中は、Webカメラで試験の様子を監視する。重要な試験は学生がいる地域で監督試験センターにおいて実施され、監督官の下でオンサイト試験が実施される。

看護学については、実技評価がある。On-campus intensives と呼ばれる大学キャンパスへの訪問のとき、学生の実技を評価する。その際、標準化された患者として、訓練された役者を使う。On-campus intensives では、実技の直接観察が行われる。



議論の様子

1-4 まとめ

少ない人数のクラスで学生一人一人に丁寧に教育を行い、優れた人材を育成していくという方針をとっている。少人数制であるため、学生の顔が見えており、個人に適した教育を提供しやすい。遠隔教育に伴う認証の問題も少ないと考えられる。同期型オンライン授業では、インターネット回線の調子が悪い場合でも授業が成り立つように、電話回線を用いて音声を最低限確保する仕組みは特徴的である。

2 American University

2-1 アメリカン大学について

アメリカン大学 (American University) も、首都ワシントン D.C. にある社会科学系を中心とした私立総合教養大学であり、ジョージタウン大学とともに「首都三大学」の 1 つに数えられている (残る 1 校はジョージワシントン大学)。1893 年、議会によって認められ、設立された。留学生の受け入れに積極的に取り組んでおり、世界 130 ヶ国以上から集まった学生が在籍する。

ワシントン D.C. という政治・経済の中心地に位置するため、世界的に有名な教授陣が在籍している。アメリカ合衆国の首都に位置することで、国際関係や政治学の分野は国際的に高い評価を得ており、その分野でのアメリカにおける研究拠点の 1 つにもなっている。

ワシントン D.C. 内にある大学と提携してワシントンコンソーシアムを作り、他の大学の授業を取ることができる。また、インターンシップに力を入れており、学部学生の 88% がインターンシップに参加し、政府関係機関や企業、非営利団体などで実務を経験する。

1994 年に、立命館大学との間で“Dual Undergraduate Degree Program (DUDP)”を開始し、立命館大学とアメリカン大学とが相互に単位認定することで、双方の学士号を取得できるようになっている。派遣期間は基本 2 年間で、アメリカン大学で 80 単位以上を取得し、アメリカン大学での所属学部での卒業要件を満たして帰国する。早稲田大学との間にも交換留学プログラムがある。



Glover Gate



Leonard Hall

アメリカン大学では、全ての学部教育および国際関係修士、コミュニケーション学修士、TEFL (Teaching English as a Foreign Language) 修士等の教育で、オンラインコースが提供されている。現在、秋、冬、夏の 3 つの学期で 100 以上のオンラインコースが提供されており、学部学生、大学院生が、仕事の合間に、あるいは海外での赴任中に、必要な単位を修得するためにどこにいても自由に利用することが可能となっている。とりわけ、夏

のセッションは充実しており、多くの学生、院生がそれを使って credit-hours を効率的に獲得している。また、アメリカン大学での学位の獲得を目指さない Non-Degree Students にとっても、部分的な単位修得（単位互換）をする上で、6 週の間には 3 credit-hours が獲得可能な夏のセッションにおけるオンラインコースは非常に有効である。現在、アメリカン大学のオンラインコースは、多くの州で正規の大学コースとして認可されている。

Interview は、Glover Gate 近くの Leonard Hall にある Office of Institutional Research and Assessment の一角で行われた。部屋には簡易給湯器があり、各自飲み物を用意して、リラックスした雰囲気の中で議論が行われた。

2-2 アメリカン大学の基礎データ

アメリカン大学には、以下の College と School がある。

- College of Arts & Sciences
- Kogod School of Business
- School of International Service
- School of Communication
- School of Professional and Extended Studies
- School of Public Affairs
- Washington College of Law

2012 年～2013 年では、825 人の Full-time faculty を擁している。Full-time の教授陣の内 95%が、その領域の最高学位を有している。

学生と教員の比は、12:1 である。クラスの大きさは、平均 22 人である。

2012 年秋時点での入学者数は、学部で 6,776 人、大学院で 3,464 人であった。130 の国と 50 全ての州から学生が学びに来ている。物理科学及び自然科学を専攻する学生の 69%が女性である。国際学を専攻する学生は 1,904 人であり、アメリカ国内の学部プログラムの中では最大である。

2-3 アメリカン大学オンラインコースについての解説

参加者

American 側 : Violeta T. Eittle (Vice Provost for Academic Administration)、Margarita L. (Lucy) Ruiz (Coordinator for Academic Administration)、Jeannie Khouri (Assistant Director of International Program Development)



左から、Lucy Ruiz 氏、Violeta Eittle 氏、Jeannie Khouri 氏、岡部、浅井、岩永

アメリカン大学では、非同期型のオンライン授業を提供している。2003 年に開始し、徐々に規模を大きくしてきた。現在ではオンラインだけで修士が取得できるようになり、世界中に学生が散在している。100 を超えるコースを用意し、カリキュラム要件を満たすオプション、特定テーマを受講するオプション、学士取得に向けたオプション等を提供する。サマースクールも行っていて、訪問学生を受け入れている。訪問学生は、対面授業を受講できるし、オンライン授業を取っても良い。サマースクールの学生は徐々にオンライン授業を取るようになり、現在は半数を超える。

オンラインコースでは、伝統的な対面授業とは配信方法やその設計が異なるものの、同じシラバスを使う。そのため、試験内容も対面授業とオンラインコースで同じである。オンライン試験は、LMS (Blackboard) で提供されている。学生はコース登録し、LMS にサインインする。これが、認証に当たる (ID と PW のみ)。試験は講師によってスケジュール管理され、提供される。

オンラインコースの学生は、伝統的なクラスと同じように学習できる環境が用意される。その代わりに、多くの時間を割いてコースに参加することが求められる。オンラインでの議論は、クラスルームでの議論より長く取られることがある。議論に参加するには、LMS にログインして、コメントを投稿する。また、講師に要求される宿題を完了する必要がある。オンラインクラスに参加する日時は学習者によるものの、週 10 時間から 15 時間の学習時間が推奨されている。

オンラインコースを実りあるものにするために、以下推奨されている。

- 最初のコースが始まる前に、技術に親しみ、オンラインクラスルームに親しんでおく。アメリカン大学では、LMSとしてBlackboardを使っている。Student Resourcesにアクセスすれば、技術利用に関する情報が得られる。何人かの講師は、Wimbaや他のプログラムを使うことを選択しており、同期型のクラスセッションを開催する。
- 時間に余裕をもって、コースに望む。早めに登録を済ませ、シラバスを読み、教科書を注文する。
- 学習に時間を割く。頻繁にログインし、クラス情報を取得し、一連の議論に参加して、共同でプロジェクトを進め、締め切りに間に合うように宿題を完了する。
- 講師との連絡を保つ。疑問に思ったりわからなかったりすることは、質問する。

試験の基本的方法は、制限時間を設けて、コンピュータ上で解答するものである。持ち込み有りの試験になっており、Open Booksと呼ばれる。ただし、学生はきちんと勉強して試験に臨まないと、制限時間内に試験を完了することができない。修士では、試験だけで評価が決まらない。オンライン授業における議論への参加や研究レポート、プロジェクトなどが評価に含まれる。

その他の不正を防ぐ方法として、研究レポートなどの盗用をチェックする。例えば、Turn It Inというコピー・アンド・ペースト防止ソフトを使って、インターネット上の文章などを検出する。また、地域に適当な場所を設けて、監督員を使って監督する。オンライン Proctoringも検討しているが、コストの問題がある。

1クラス当たりの学生数は約20人である。最大でも、25人におさえている。25人を超えると、Wait Listが作られ、もう一つのオンラインコースが開講される。ただし、8人に満たない授業は開講されない。

一般に、教授陣にとってオンラインコースの負荷は高い。現状では、800~900人のFull-time教授陣の内、50人くらいがオンラインコースを提供している。オンラインコースを制作する予算として、1つのオンラインコース当たり300ドルが制作費用として支給される。オンラインコースを制作する教授陣はFDを受けて、制作方法や手順を学ぶ必要がある。ただし、TAに支援してもらえる。TAは修士の学生が担当し、時間当たり15ドルで、週当たり10時間働く。

オンラインコースは、まず、オンライン授業に興味がある教授陣によって始められた。オンラインコースを夏に開始した当初は、学内のコンサルタントに頼んで教授陣を指導してもらった。その後、教授陣が10人ぐらいに増えたら、Center for Teaching Excellenceで訓練プログラムを作った。インセンティブは、Free Training、TAの使用、クラスが増えた分の給与増等である。オンライン授業の柔軟性が理解され、その利点が教授陣及び学生に浸透してきている。ただし、オンライン授業を準備するための仕事量が増えるという欠点はある。この欠点は、LMSなどのシステムで効率化して解決しようとしている。

授業料は、対面授業でもオンライン授業でも同じである。授業料は、コース毎に支払わ

れる。そのため、受講者の少ないオンライン授業（8人未満）は開講しない等の措置を取る
ことにより、赤字を防いでいる（大学運営の90%は、学生からの授業料で成り立っている）。

2.4 まとめ

オンラインコースの多くは夏期に実施され、サマースクールに参加する学生が受講しや
すい環境を整備している。教授陣を啓蒙して質の高いオンラインコースを提供すること
によりコースの魅力を高めたり、夏期に開催することにより学生が受講しやすくしたりして
いる。また、学生にオンラインコースを受講するための技術情報や事前案内を提供するこ
とにより、オンラインコース受講の障壁を低くしている。これにより、オンラインコース
を受講する学生の数を急速に伸ばしている。

3 メリーランド大学ユニバーシティカレッジ（UMUC）

3-1 UMUC について

メリーランド大学ユニバーシティカレッジ（UMUC）はアメリカ合衆国メリーランド
を本拠にした高等教育機関であり、仕事や家庭、軍に従事する学生に質の高い学術プログ
ラムを提供する。UMUC は、メリーランド州だけではなく、世界中に9万人もの学生を持
ち、学部教育及び大学院教育を行っている。

UMUC は、1947年、College of Special and Continuation として設立され、1959年に
UMUC となった。1950年代にはアメリカの軍部門が8大学と契約し、教授陣をヨーロッ
パに派遣し始めた。軍事基地で、軍人の教育にあたった。長い間 Maryland 大学が中心的
に教授陣を派遣してきた。現在は、アジアと欧州部門、25以上の国と地域での軍事施設で、
米軍への教育サービスを展開している。

日本にある米軍基地（厚木、横田、横須賀など）にも、UMUC の分校がある。こうした
分校には、アメリカ軍関係者だけではなく、日本人の基地内留学を認めているところがあ
る。

調査は、1) UMUC オンラインコース解説、2) Largo 施設概要、3) UMUC の学習モデル
とオンライン学習、4) Media Lab 概要の順に行われた。



UMUC のロゴ



寄贈作品（左側：Mori Yoshitoshi 作）

3-2 UMUC の基礎データ

2013 年度では、国内学生は 63,000 人あまりであった。この内、メリーランドに住むのは約 34,000 人で、国内の 61 パーセントを占める。最近 10 年では、海外からの学生が減り、その分国内からの学生が増えている。

年度	米国内	海外	総計
2003	36,206	50,991	87,197
2004	37,818	50,234	88,052
2005	41,208	47,291	88,499
2006	41,309	42,879	84,188
2007	47,699	38,462	86,161
2008	48,607	39,038	87,645
2009	50,707	35,764	86,471
2010	55,862	39,133	90,732*
2011	58,593	36,075	92,211*
2012	64,127	36,256	97,001*
2013	63,103	33,694	93,193*

* Marginal duplication was reported in worldwide total prior to FY10.

UMUC は、仕事を持つ社会人に対して高等教育の機会を提供する。2013 年春の時点では、UMUC のアメリカ本土のプログラムに入学した学部学生の 78%がフルタイムで働いており、アメリカ本土学生の 49%は働く親である。2012 年秋では、UMUC のアメリカ本土学部プログラムに入学した学生の平均年齢は、31 歳であった。

2013 年には、10,509 件の学位を授与している。その内訳は、準学士に対して 1,388 人、学士に対して 5,065 人、修士に対して 3,976 人、博士に対して 80 人であった。学位授与者は 2,000 年当たりから急増し、年間 1 万件に近づいた。

UMUC は、マイノリティ学生のための高等教育を提供する。2012 年秋には、アメリカ本土学生の 34%はアフリカ系アメリカ人であった。マイノリティ学生の占める割合は、総入学者の 47%である。また、修士号の 39%はアフリカ系アメリカ人学生に授与され、すべての学位及び認証の 32%はアフリカ系アメリカ人の学生に授与された。

2012 年度時点では、メリーランド州のすべてのコミュニティカレッジと提携を結んでおり、351 もの連携プログラムを実施した。

UMUC は、アメリカ軍に高等教育を提供する学術機関でもある。現在、現役軍人、予備軍、その家族、退役軍人を含めて約 56,000 人が在籍する。4 大陸 150 以上の世界中の拠点でコースを提供する。

3-3 UMUC オンラインコースについての解説

参加者：Javier Miyares (President)、Marie Cini (Provost and Senior Vice President for Academic Affairs)、Muriel Joffe (Executive Director, International Programs)



左から、Javier Miyares 学長、岡部、Marie Cini 副学長、Muriel Joffe 博士、岩永

UMUC では、当初から遠隔教育が核にあった。オンライン授業を始める前は、郵便、ビデオ、オーディオ・テープ、ビデオ会議、メール等を使った通信教育が主であった。1990 年代後半からはオンライン授業に移行し、アメリカでの標準的なモデルになった。

現時点で 9 万 3 千人あまりの在学生在がおり、約 85%はオンラインコースを主に取っている。面接授業も残しており、特に Largo では教室での対面授業が実施されている。対面授業は徐々にオンラインを利用し始め、対面とオンラインの混合授業になってきている。

UMUC は、学部教育及び大学院教育を行っている。経営学では博士課程も持っている。Full-time の教員とプログラムディレクタは全体の 10-15%で、あとは Part-time である。

Full-time の教員の中には教授支援や情報技術の専門家がおり、Part-time の教員を教育している。

教材は、基本的に対話型に設計されており、ビデオを流しっぱなしにすることはない。インタビューなどのビデオは、クリップとして用意される。オンラインで提供される印刷物を読んだり、シミュレーションを実施したりして学習を進める。また、学生同士や教員とのオンライン議論（リアルタイムではない）が重視される。大きなコース開発組織を持っており、その構成員が実際に教材を構築している。Part-time の専門家を配置して、教材開発を支援する。

試験のやり方は、現在過渡期にある。当初、特定の場所に学生を集めて監督するというやり方で、試験を実施していた。つまり、学習はオンライン授業で行い、その試験は地域のセンターで受験する。ただ、こうした試験で知識を問うだけではなく、Authentic Assessment と呼ばれる方法に移行しつつある。LMS など学習履歴を記録し、学習の多様な活動を評価する。オンライン Proctoring System についても検討している。

3-4 Largo 地区施設概要

案内者：Donald Evans (Building Manager)

Largo キャンパスには、学習センターとヘルプデスク、教材作成などの機能がある。Largo は5年ほど前に購入され、内装が改装された。グリーン（エコ）ビルディングになっている。夕方を中心に、面接授業が実施される。見学時は昼前だったので、学生は少なかった。

面接授業は、講義室で行われる。各講義室には30人程度が収容できるようになっており、がっしりとした机と椅子が配置されていた。コンピュータールームもあり、30台あまりのPCが用意されていた。

ヘルプデスクがあり、間仕切りのある大部屋で100人程度が対応している。この施設内の要員は、Full-time である。別途 Part-time の支援要員もおり、24時間体制で運用に当たっている。この施設には小規模ながら充実したカフェテリアがあり、教職員及び学生が利用している。



Academic Center at Largo



カフェテリア



コンピュータールーム



ヘルプデスク

3-5 UMUC の学習モデルとオンライン学習

参加者：Ruth Markulis (Senior Instructional Technologist, Faculty Development, Instructional Services and Support: ISS)、Anna Van Wie (Assistant Director Learning Design and Assessment, ISS)、Emily Medina (Director, Learning Solutions Group, ISS)

The UMUC learning model and learning experience online

オンライン授業の learning model は Competency-based learning と呼ばれ、学生が理解度に応じて step-by-step で学べるように教材が設計されている。

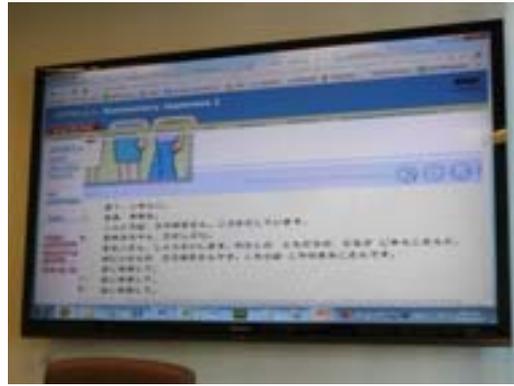
学生は、基本的に LMS を使って、スケジュールに沿って学習していく。教材は、参考資料だったり、参考書籍だったり、ビデオクリップだったり、アニメーションだったり、シミュレーションだったりする。教材の中に、双方向機能が埋め込まれている場合もある。

講師とのインタラクションは、基本的に非同期で行われる。LMS に学生からの質問がリストされるので、講師がそれに回答する。また、チャット機能を使うこともできる。チャットは学生同士、講師と学生との間で個別に行う。チャットは情報交換を目的として使われており、評価には関係しない。

LMS には、学習履歴がすべて記録されている。そのため、講師は、学生の学習進捗状況や間違いやすいポイントを把握することができる。また、学生も自身の学習が全体の中で、どこまで進んでいるのか把握できる。理解度を確認する問題が用意されており、どこが理解できていないのかわかると共に、試験勉強を兼ねる。



議論の様子



日本語教材の例

LMSには、Desire2Learnを利用している。カナダの会社が提供しているものである。Desire2Learnを採用する前は、WebTychoを利用していた。Desire2Learnを採用するとき、他の候補として、Pearson、BlackBoard、SAKAIを検討した。LMSにはビデオクリップのヘルプ機能が備えられており、文字だけのヘルプより格段にわかりやすい。

The course development process

Instructional Designに沿って、コース開発を行っている。Instructional Designのモデルは、ADDIE (Analyze, Design, Develop, Implement, Evaluate)を採用している。このモデルに基づいて、コースが設計される。

一つのコースを開発するのに、6~9ヶ月かかる。制作は専属のチーム（総人数10人強）が行い、1人当たり同時に4,5コースを担当する。年間では、一人当たり15コース程度になる。コース開発体制は、Program Directorが責任を持ち、講師とチームが協力して制作する形を取っている。

一つのコース制作に関わる人は、Lecturer、Program Director、Instructional Designer、Editor、Graphics Designer、Programmerなどである。Office of Instructional Services and Support (ISS)の以下のグループが、主にコンテンツ制作に携わる。

Instructional Programming and Multimedia

Learning Solution Group

Learning Design and Assessment

Quality Assurance

How we integrate videos into courses

LMS上の教材では、ビデオは短時間のクリップとして用意される。インタビューや状況説明に使われており、講師が講義する様子を提示するだけのためには用いない。また、学

生の思考を促進するため、アニメーションやシミュレーションも使われる。手順や原因と結果を動画で示したり、入力に基づいてその結果を示したりする仕組みも用意されている。

Open Educational Resources を使って、お金のかかる著作物を避けている。Google の Advanced Search で条件を絞り、ライセンス問題のない素材を探す。

3-6 Media Lab 概要

参加者：Laddie Odom (Multimedia Producer, ISS)、Prince Rozario (Multimedia Production Specialist, ISS)

映像音声によるコンテンツを作成するスタジオを見学した。上記 2 人が中心になり、3 人のスタッフで運用している。講師卓があり、講師をプロンプタ付のカメラで撮影する。プロンプタは、講師の横に置いてある PC から出力される。背景には、グリーンカーテンとまだら模様のカーテンが配置されていた。前者はクロマキー用、後者は背景模様として使われる。



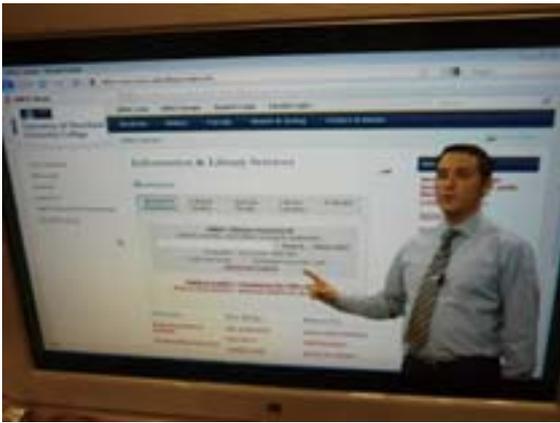
ビデオ編集装置



講師卓 (右側にカメラ、左側にナレーション用マイク)

基本的に編集はノンリニア編集機で行い、教材の構成は講師だけではなく、数名のスタッフ（ディレクター、デザイナー、編集者等）が意見を出し合い、形作られる。

コンテンツは予めその概要が決められるが、ビデオの時間枠が決まっているわけではない。そのため、講師側で制限時間に納めるというプレッシャーから解放される。ただし、一つのビデオクリップは、あまり長くならないようにしている（10～15分程度）。



クロマキー合成画像



リアルタイム合成のモニター



講師卓からプロンプタを見た様子



プロンプタ表示用 PC

3-7 図書館

図書館は、100%電子図書化したため、小さな部屋であった。

3-8 まとめ

Part-time の講師や簡易型の撮影システム、フリーの資源を使って教材を安く作り、LMS を使って学習理論に基づいた教育を提供している。Part-time の講師には様々な背景を持った人がおり、教育に多様性を与えている。教育の質は、Part-time の講師を FD で教育したり、学習理論を学んだ支援スタッフを配置したりして保っている。講師の FD を強力に推進したり認定を与えたりしている点、支援スタッフが学習理論を知っており教材を設計したり授業の質を確認したりしている点が、放送大学と大きく異なる。

資料：放送大学と各調査大学の一般事項比較表

国名	日本	中国	イギリス	アメリカ
大学名 (英語名)	放送大学 The Open University of Japan	国家開放大学 The Open University of China	公開大学 The Open University	メリーランド大学 University of Maryland University College
設立年	1983	1979 (公開大学として 1999)	1969	1959
学生数	88,901 (2012年)	3,667,290 (2013年)	約 240,000 (2013年)	93,193 (2013年)
教職員数 (非正規含む)	3,324 (2012年)	120,065 (2011年)	約 11,600 *1 (2013年)	5,022 (2013年)
キャンパス	本部 1カ所	本部 1カ所	本部 1カ所	本部 2カ所
面接授業	各学習センターで 教員が実施する		チュートリアルという形 で地域センターで実施	米国各地で実施(世界 150 か所で講義を開催。軍基 地対象も多し。コミュニ ティカレッジとの連携あ り)
授業利用 メディア	TV、ラジオ、インターネ ット、CD-ROM、DVD 等	印刷教材、テキスト、ガイ ドブック、課題、双方向 デジタルTV、カセット、 ビデオCD、CD-ROM、 TV&ラジオ放送、ビ デオカンファレンス、I P コースウェア、面接授 業、インターネット	インターネット、 CD-ROM、DVD 実験用セット等 (放送授業なし)	インターネット等
学生サポート 施設	学習センター、学習サポ ートセンター、インター ネット等	学習サポートセンター、 インフォメーションテク ノロジーセンター	対面、手紙、電話、イン ターネット等にて	対面とインターネット等 にて
学生サポート員	教職員	教職員	入学見込み者支援部門と 学生支援部門の職員、担 当する Associate Lecturer (AL)	教職員 チュータ
学習センター	学習センター50 サテライトスペース 7	地方広播テレビ大数 44 地方広播テレビ大とあわせ て分校 4,000、チュート リアルセンター60,000	地域センター13	150 (連携校や軍事基地 内)
図書館の蔵書	本部図書館約 33 万冊 学習センター約 42 万冊	約 8 万冊	本部図書館約 25 万冊 オンライン図書 e-books 約 50 万 e-journals 約 8 千	ウェブベース図書デー タベース 106 e-books 約 4 万 7 千

※本表には、公開大学の情報のみ掲載する。

*1 Associate Lecturers(非常勤)約 6,000 名を含む

編集・著作 放送大学
総合戦略企画室
国際連携係
〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
Tel : 043-276-5111
Fax : 043-297-2781
URL : <http://www.ouj.ac.jp/>
報告書発行 2014年3月